

光学事業

グローバルシェア No.1 反射鏡

13.3期展開

- ・ 教育用途を軸とし、プロジェクターの需要は増加するが、同時に低価格化が進む。
- ・ 高付加価値製品であるTCM（結晶化ガラス）に対し、XHK（アルミノシリケートガラス）の需要が高まり、売上高は横ばいとみる。

	12.3期 実績	13.3期 予想	
売上(百万円)	2,408	横ばい	→
数量(千個)	4,962	微増	→
単価(円)	485	低下	↘
シェア	44%	46%	→

グローバルシェア No.2 フライアイレンズ

13.3期展開

- ・ ガラスの高透過率化を武器に、シェア拡大を目指す。
- ・ DLP用反射ミラー、固体光源プロジェクター用光学レンズ等の高付加価値製品の獲得を図る。

	12.3期 実績	13.3期 予想	
売上(百万円)	812	増加	→
数量(千個)	2,489	増加	→
単価(円)	287	低下	↘
シェア	36%	42%	→

経営課題

既存事業の収益確保

- プロジェクター関連【反射鏡・フライアイレンズ・偏光子】
- ・ 数量・シェアは拡大するものの価格低下圧力が強まる
 - ・ 研磨加工・成膜の外注依存比率が高まり付加価値が減少
- ➡ 生産性の向上・外注工程の社内取り込み

事業多角化

➡ 新規事業の早期育成

コアコンピタンスを活かした新製品の開発拡販

岡本硝子
3つのコアコンピタンス

硝材開発技術
精密成型技術
薄膜技術

+ 粉体技術

既存事業の収益確保

重点施策

(1) 反射鏡製造ラインの集約

新潟岡本硝子への集中による効率化
(装置の能力アップの改善も同時実施)

(2) 余剰能力の活用

外注工程の内製化推進

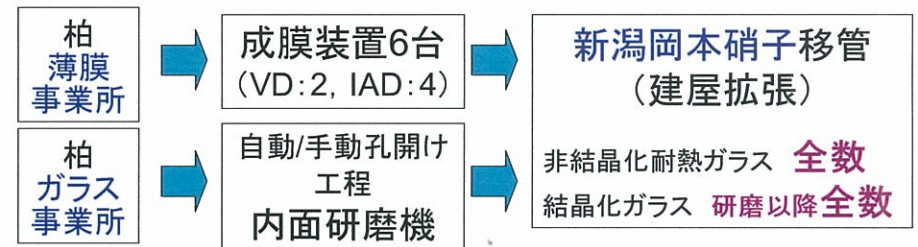
(3) 柏 薄膜事業所の業態変革

多種多様化に対応した、新製品開発生産工場へ



反射鏡製造ラインの集約

重点施策(1)



一貫生産・集中生産による高品質/コストダウンを実現

実施時期 2013年 1月 量産開始

【移管数量】 非結晶化耐熱ガラス } 合計 120万個/年
結晶化ガラス